

「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」

(School-wide Positive Behavior Support)



東みよし町立
加茂小学校が
取り組む



スクールワイド PBS

かもっこスマイルプロジェクト

全校で取り組む「3つの大切」

～児童の「できた!」を引き出すポジティブ支援～



「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」とは？

SWPBS (School-wide Positive Behavior Support)



» 01 学校教育におけるポジティブな行動支援の重要性

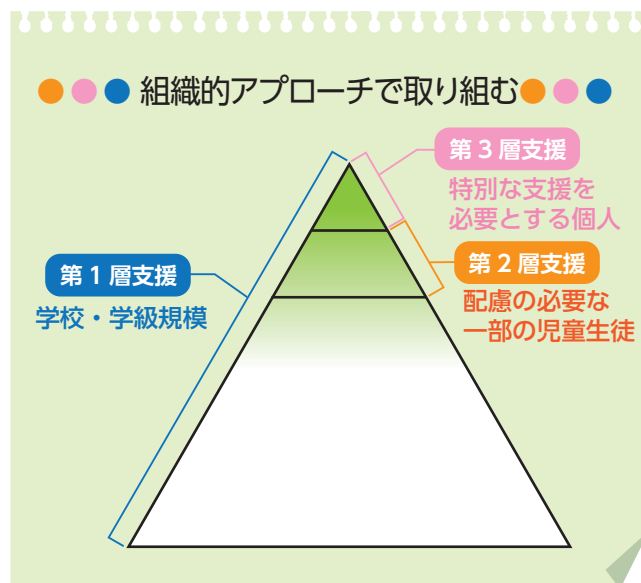
児童生徒が示す問題行動によって、学校における本来の「学び」が成立しなくなってしまうという事態は避けなければなりません。児童生徒の問題行動に対して、適切に支援を行い、社会性を育むことは、学校教育において児童生徒に学業を教えることと同様に重要です。問題行動を解決するためには、「問題行動を罰する」のではなく、「望ましい行動を育てる」という発想が必要です。そして望ましい行動を育てるためには、3つのポイントが不可欠です。それは、「教えること」、「ほめること」、そして「環境を整えること」です。

» 02 対象はすべての児童生徒

望ましい行動を効果的に教わることで、その行動ができた際に賞賛や承認を受けることで、そして、適切に行動しやすい環境を整えることで、「すべての児童生徒」が、望ましい行動を学ぶことができます。

SWPBS では、第1層支援から第3層支援へと階層的で連続的な支援システムを設けます。第1層支援を充実させることによって、個別性の高い第2層支援や第3層支援を真に必要とする児童生徒への支援を絞り込むことが可能となり、教員の時間や労力が限られている状況においてよりの確な支援を行うことができます。

問題行動の解決に向けた個別の支援(第2・3層支援)だけでなく、学校における問題行動の予防に向けた組織的アプローチが重要とされています。「すべての児童生徒」を対象とすることで、私たちは「問題の解決」だけでなく、「問題の予防」にも取り組むことができます。

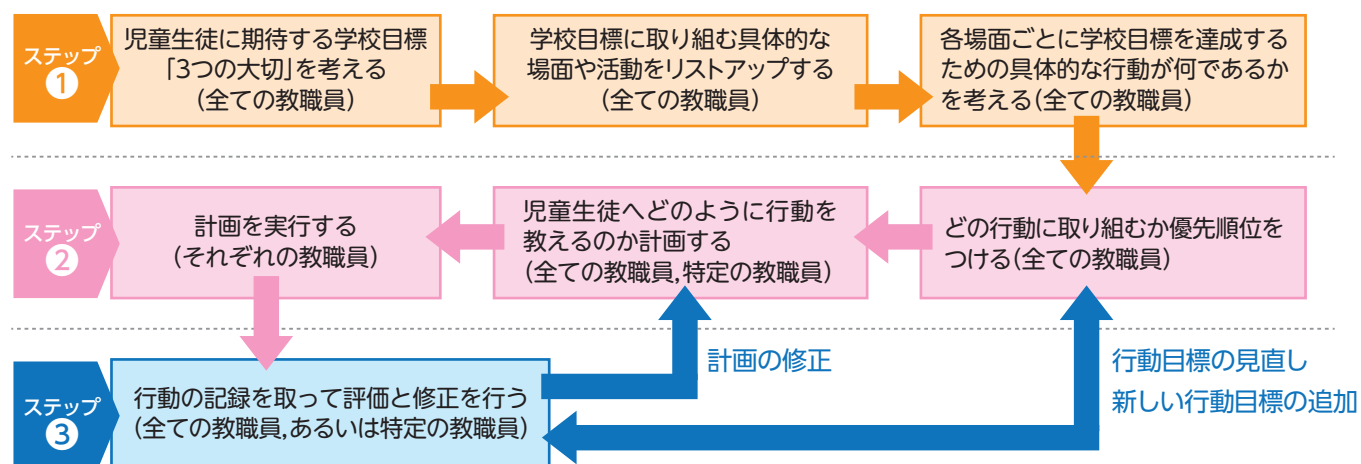


» 03 SWPBSとは

このような考え方は、「罰を使うことなく、望ましい行動を育てる」という点で「肯定的 (Positive)」であり、「問題が起こる前から取り組む」という点で「積極的 (Proactive)」です。この2つの意味の「ポジティブな支援」を、学校規模ですべての児童生徒を対象として実施するアプローチが SWPBS です。

加茂小学校では、次のようなフローチャート図にそって、全国に先駆けてSWPBSに取り組みました。

SWPBS 取組のフローチャート図



「3つの大切」の具体化(マトリックス図の作成)

校内の現状を観察し、課題となる「3つの大切」を決定

児童が、どの場面でどのような行動をしているかを観察します。全教職員は、加茂小学校の課題や児童の伸ばしたい力をとことん話し合います。さらに、専門家からアドバイスを受けて、加茂小学校が大切にしたい「3つの大切」を決定しました。



職員研修の様子



①「3つの大切」を決定

②指導の場面を決定

	きまりを守ろう	自分も友だちも大切にしよう	すてきなことをかけよう
授業中(教室)	☐ 授業が終わったら次の授業の準備をしよう ☐ 授業が始まるときにえんぴつ2本・赤えんぴつ1本・けしごむ1を机の上に用意しよう	☐ 話をしている人の方へおへそを向けよう ☐ 「同じです」「そうだね」「わかりました」「うなづく」など発表している人に反応しよう	☐ 「です・ます」のような丁寧な言葉を使おう ☐ 指名されたら「はい」と返事をしよう
体育(体育館)	☐ すばやく集合・整列しよう ☐ 使った道具は元の場所にもどそう	☐ 授業の準備や片付けを友だちと協力してやろう ☐ 相手チームのすごいところをほめる言葉で伝えよう	☐ 自分のチームが負けても「がんばろう」「ドンマイ」と声をかけよう
そうじ	☐ そうじ場所にある決められたマニュアルのとおりそうじをしよう ☐ 自分の分担場所をそうじ時間内にきれいにしよう	☐ そうじ分担をみんなで協力してやろう ☐ 自分のそうじ分担が終わったら、まだ終わっていない人を手伝おう	☐ そうじのはじめと終わりに同じ分担の人とあいさつをしよう
業間休み 昼休み	☐ トイレをすませてから遊ぼう ☐ 予鈴を聞いたらすぐに教室にもどろう	☐ 友だちと話をするときは「あったか言葉」を使おう ☐ 友だちの名前をよぶときは〇〇さんとよぼう	☐ 友だちに「ありがとう」「ごめんね」と言おう
ろうか	☐ ろうかや階段、ベランダでは右側を歩こう	☐ 前から人が来てすれちがうときには「どうぞ」とゆずりあおう ☐ 人にゆずってもらったら「ありがとう」と言おう	☐ 先生やお客さんとすれちがうときには軽く頭を下げよう ☐ 学年がちがっても朝や帰りのあいさつを大きな声で言おう

③指導可能な目標に具体化

Point



学年団の話し合いの様子

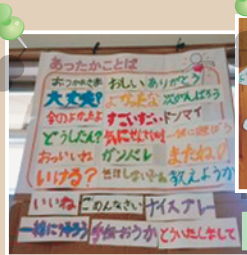
全教職員で「合意」を図るのが重要です

- 全教職員が学年別のグループに分かれて、3つの大切の内容を実際の行動に置き換える作業(具体化・可視化)を、演習形式で行いました。全教職員が学校目標を共通理解し、取り組むことが大切です。
- マトリックス図の全ての目標の中から、加茂小学校の児童に付けたい力を精選し、優先度の高い「挨拶」や他の場面でも良い影響が出やすい「あったか言葉」から指導を開始しました。

期待される行動を学校全体でシステム化



全体集会:校長先生や児童による広報



各教室や廊下に掲示



Point

管理職を中心に「全教職員」で取り組む！

- 校長先生が「みんなで加茂小学校によい風(校風)をふかせましょう」と、全校集会で3つの大切を実践するように、呼びかけました。また、児童による挨拶を推奨する寸劇も行われました。各教室でも担任から指導が行われ、全児童教職員による取組がスタートしました。

全クラス同時に実施

全校で取り組む

1つ目の学校目標

「学年が違ってても大きな声で挨拶しよう！」

2つ目の学校目標

「友達と話をする時は、あったか言葉を使おう！」

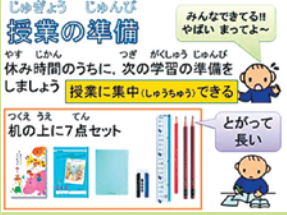
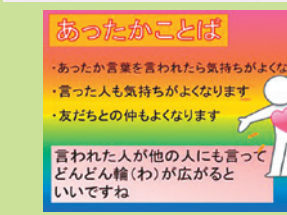
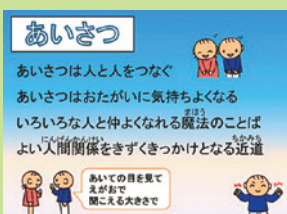
その他の学校目標

「授業準備をしよう！」
「予鈴で着席しよう！」
「話している人の方へおへそを向けよう！」



学校目標を具体化した内容の練習を行う。

学校目標を教室や廊下に掲示する。



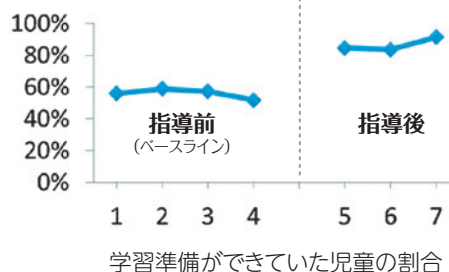
※具体的な実施手続きは、Q&Aの「行動指導計画表」をご参照ください。

成功の秘訣は？

Point

指導の効果を確認するために、記録を取って改善へ！

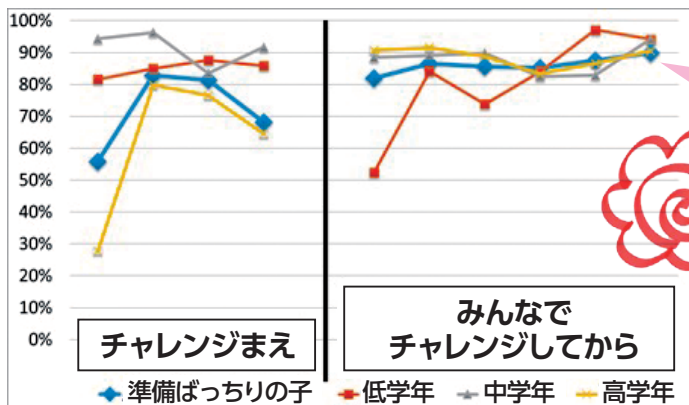
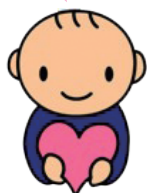
- 指導の効果を確認するために、学校目標がどのぐらいできるようになったかを記録する方法を決めました。まず、指導を始める前にどのぐらい学校目標が実行されているのかを記録します(これをベースラインと言います)。
- 全教職員で指導の効果を確認しながら進めることが重要です。効果が少なければ、どうすれば改善できるのかを考える指標となります。記録(データ)を手がかりに指導の改善を進めることができます。



期待される行動を見つけて認める(褒める)



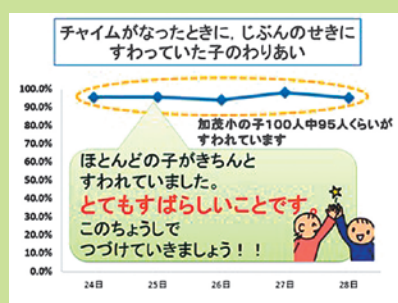
授業に向かう
準備や姿勢も
バッチリ！
素晴らしい！



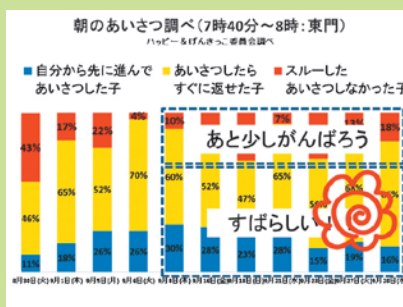
準備
バッチリデー



学校目標の成果を数値で児童にフィードバック



授業開始時着席していた児童の割合



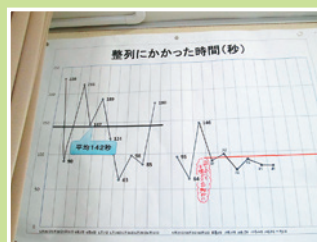
朝、自分から挨拶した児童の割合



あったか言葉を全児童で共有



あったか言葉をクラス全員で増やすための取組表



クラス全員で素早く整列した時間をフィードバックしたグラフ

掲示物



児童がよく通るところや教室に成果を掲示し、取組成果をフィードバックします。

全体集会



校長先生による学校目標の成果が定期的にフィードバックされます。

Point

児童の「できた!」を全力で注目し、認める。

全校集会での
校長先生
のお話



●加茂小学校では、朝から「おはようございます」の元気な声が聞こえてきます。「だいじょうぶ」「ありがとう」などのあったか言葉も広まっています。

●みんなががんばってきたプロジェクトで、加茂小学校に「てきぱき行動する風」や「話をしっかり聞こうとする風」が吹いてきました。この調子でみんなががんばって加茂小学校にいい風をふかせましょう。

SWPBSに関する Q & A

Q SWPBSはどうやって始まったのですか？

A ●SWPBSは、アメリカ合衆国において2000年頃から取り組み始められました。アメリカにおいては、1997年に連邦法である個別障害者教育法 (Individuals with Disabilities Education Act: IDEA) の改訂によって科学的な根拠のある行動支援を実施することが法的に義務づけられるようになり、SWPBSが普及する契機となりました。今ではアメリカにおいて SWPBSに取り組んでいる学校はおよそ20,000校あります。その他の国でも、例えばオーストラリア、ノルウェー、カナダなどにおいても SWPBSの成果が報告されています。

Q 叱ることも大切だと思うのですが？

A ●望ましい行動を学ばせたい場合、「叱ること」や「罰・ペナルティ」が持つ効果とは、基本的に「行動の抑制」に限定されます。「罰やペナルティの予告」によって、適切な行動を促すことができるかもしれませんが、それは単に児童生徒が罰から逃れようとしているだけです。児童生徒が、望ましい行動を学び、社会性を身につけることにはつながりません。

Q 学校で取り組みたいのですが、参考になるものはありますか？

A 「行動指導計画表」が参考になります。徳島県立総合教育センターホームページから資料を取得できます。

「特別支援まなびの広場」 <http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/>

行動指導計画表には、全職員で共通理解して取り組むための概要が簡潔に明記されています。ホームページからダウンロードしてご活用ください。

この他にも次のような資料が公開されていますので、必要に応じてご活用ください。

- | | | |
|------------------|---------------|-----------|
| ○記録用紙 | ○3つの大切マトリックス表 | ○職員研修会用資料 |
| ○校長先生のお話用パワーポイント | ○全校朝会用スライド | ○各種シート等 |

Q 加茂小学校の児童により変化は見られましたか？

- A** ●記録を取ることによって、意識が高まり、自分から挨拶をしようと思う児童が増えました。
- 全校で取り組んだので、自分の教室にいても外の廊下や他の教室からも元気な挨拶が聞こえてきて、本学級の児童の挨拶に対する意識も自然に高まりました。
- 教員自身も意識してあったか言葉で声かけをするようになり、言葉だけでなく、あたたかい行動も増えて、学級全体が良い雰囲気になりました。
- 授業の逸脱行動がなくなり、授業に集中できるようになったことで、学校全体が落ち着きました。
- 友達と仲良く遊べる児童が増えました。
- どのクラスのどの授業も学校目標によって、授業中のルールが明確になっています。できているところを褒めて賞賛しやすいので、児童の学習への動機づけも高まっています。

Q 教員の仕事は増えましたか？

- A** ●児童の問題行動が減ったので、その対応時間が減り、教員の負担が軽減しました。
- 担任だけでなく、学年団や学校全体で共通理解して指導にあたるようになったので、児童への指導がしやすくなりました。

※本事業は、徳島県教育委員会、東みよし町教育委員会、東みよし町立加茂小学校が連携して取り組んでいます。東みよし町では平成26年より県内に先駆けて「確かな学力育成プロジェクト推進委員会」を立ち上げ、小学校と中学校のスムーズな接続を目的として、小学校での学び方を統一する取組を展開しています。その取組の一環として東みよし町スタンダード児童用「学びの手引き」と教師用「確かな学力の育成に向けて」を作成し、全児童・教職員が毎日の生活で活用しています。加茂小学校では町全体の取組を背景としながら、学習規律の向上や学力育成の具体的手段としてかもっこスマイルプロジェクト(KSP)を位置づけ、その目標として「学びの手引き」の内容をマトリックス図に多く採り入れています。

●パンフレットについての
お問い合わせ

徳島県立総合教育センター

〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷 1-7

電話：088-672-5200 E-mail : tokubetushien@mt.tokushima-ec.ed.jp

